

■ 編集だより

編集後記

本学会は、精神神経学雑誌と Psychiatry and Clinical Neurosciences 誌を擁している。精神神経学雑誌は 115 年、PCN 誌は 84 年の歴史を誇る。PCN 誌は 1933 年に創刊され、本学会英文誌として発刊された時期 1953～1974 年の後、フォリア刊行会から 2007 年まで発刊されていた。本学会が専門医制度を発足し、専門学会として英文誌を発刊する準備を独自に行っていたが、フォリア刊行会からの提案によって、2008 年から本学会の国際誌として発刊されることになった。

インパクトファクター (IF) は、本学会に移管時は 1.132 であったが、2011 年には 2.133 となった (発表は 2012 年)。その後一旦、1.62 まで後退したが、2015 年には 2.025 となっている (発表は 2016 年)。PCN 編集委員会では当面 IF 3.0 を目標にさまざまな努力がされている。先端的な研究者による依頼総説 (PCN Frontier Review)、特集 (Special Issue) への論文の公募とともに、2014 年からは 2 ヶ月の 1 回の発刊から毎月発刊となっている。

本邦の研究者は、欧州・米国の有力雑誌からの文献引用をする割に、当人も含めて本邦発の論文を引用しない傾向があることが、PCN 誌編集委員会における調査でわかってきた。その傾向を是正するだけで、目標とする 3.0 は比較的容易であることが判明してきた。一定の水準の IF になると、質の良い論文がさらに集まる好循環が生まれる。英語論文を発表の際には、PCN 誌以外への投稿の際にも PCN 誌の論文を適切に引用をして欲しい。

精神神経学雑誌では、本学会から PCN 誌を発刊したときから、PCN だよりとして、PCN 誌の論文紹介をしてきた。また、精神医学のフロンティアとして、PCN 誌編集委員長が選んだ優秀な論文をその著者に紹介してもらっている。このような取り組みは、他の言語圏ではほとんどされていない。本学会だからできる取り組みとあってよい。

実は、精神神経学雑誌は和文だけでなく、英語論文も掲載可能である。学位論文を英語という風潮からすると、Medline (Pubmed) にも収載されている精神神経学雑誌に発表ということも考慮してみる価値がある。

生物学的研究では英文誌への投稿が多くなるのは致し方ないであろう。一方、社会精神医学、司法精神医学、精神療法、地域での地道な取り組みなどの分野では、日本語によって表現することが臨床的観点だけでなく学術的にも重要だと考える。精神神経学雑誌と PCN 誌を車の両輪として、活発な論文発表が行われることを期待したい。

細田眞司